

日本風景街道大学 白川郷・五箇山校

報告書

平成 27 年 11 月 6 日・7 日

日本風景街道大学「白川郷・五箇山校」実行委員会





開催地域イメージ（写真提供：古田直樹氏）



全体会会場（写真提供：トヨタ白川郷自然学校）



全体会



分科会総括



菅沼合掌集落（写真提供：古田直樹氏）



現地ワークショップ



## 目次

1 . 全体概要 (プログラム)	1
2 . 全体会	2
( 1 ) 開催地基調報告	3
テーマ : 「世界遺産登録 20 周年の歩みと地域連携」	
( 2 ) 全国事例報告と討論	7
全国事例報告 : テーマ : 世界遺産と日本風景街道 (日本遺産を含む)	
全国事例報告 : テーマ : ジオパークと日本風景街道	
( 3 ) 全体会議総括	16
日本風景街道が担う役割 課題と展望	
( 4 ) 次回開校地紹介	17
3 . 分科会	18
( 1 ) 第 1 分科会 : 世界遺産・日本遺産やジオパークと日本風景街道	18
( 2 ) 第 2 分科会 : 日本風景街道と「道の駅」の関係	19
( 3 ) 第 3 分科会 : 日本風景街道と急がない旅	20
( 4 ) 第 4 分科会 : 広域連携と二次交通	21
( 5 ) 分科会総括	22
4 . 現地ワークショップ	23
5 . 全体総括 (提言)	24

表紙・口絵 : 写真提供

岐阜県 白川村 基盤整備課 課長補佐 古田 直樹氏

## 1. 全体概要（プログラム）

日程：平成 27 年 11 月 6 日（金）～7 日（土）

会場：全体会「トヨタ白川郷自然学校」（岐阜県白川村）

分科会「五箇山合掌の里」（富山県南砺市）

主催：日本風景街道大学「白川郷・五箇山校」実行委員会

構成団体

NPO 法人日本風景街道コミュニティ、世界遺産合掌街道実行委員会、国道 156 号線改良連絡協議会、国土交通省中部地方整備局、国土交通省北陸地方整備局、国土交通省中部地方整備局高山国道事務所、国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所、岐阜県、富山県、中日本高速道路株式会社名古屋支店高山保全・サービスセンター、荘川観光協会、白川郷観光協会、（一社）南砺市観光協会、高山市、南砺市、白川村

平成 27 年 11 月 6 日（金） 会場：トヨタ白川郷自然学校(岐阜県白川村)

### 開会式

開会挨拶と開校目的について：石田東生 日本風景街道大学「白川郷・五箇山校」実行委員長

開催地挨拶：田中幹夫 南砺市長・成原 茂 白川村長

来賓挨拶：茅野牧夫氏 国土交通省中部地方整備局長

実行委員会構成団体一言コメント：山腰博文 世界遺産合掌街道実行委員長、  
高木善幸 岐阜県県土整備部長、林 正之 富山県土木部長

### 開催地報告

報告者 和田正人 「合掌・さくら」飛越街道協議会

○テーマ：「世界遺産登録 20 周年の歩みと地域連携」

### 全国事例報告 : テーマ：世界遺産と日本風景街道（日本遺産を含む）

座長 田中孝治 NPO 法人日本風景街道コミュニティ理事

報告者 青木直子 認定 NPO 法人富士山クラブ理事・事務局長

○テーマ：世界遺産「富士山」と「ぐるり・富士山風景街道」

報告者 桜井あけみ 東オホーツクシーニックバイウエイ連絡会議副会長

○テーマ：「知床」と東オホーツクシーニックバイウエイ

### 全国事例報告 : テーマ：ジオパークと日本風景街道

座長 原文宏 NPO 法人日本風景街道コミュニティ理事

報告者 米田 徹 糸魚川市長

○テーマ：世界ジオパーク「糸魚川」と「北アルプス展望 最長最古の塩の道ルート」、  
「日本の原風景『枝垂れ桜の咲く里への回り道』」

報告者 三松靖志 シーニックバイウエイ支笏洞爺ニセコルート事務局長

○テーマ：世界ジオパーク「洞爺湖有珠山」と「支笏洞爺ニセコルート」

### 全体会議総括

高松 論 国土交通省道路局環境安全課道路環境調査室長

石田東生 NPO 法人日本風景街道コミュニティ代表理事

### 次回開校地紹介

宮崎典男 福島県いわき市副市長

※敬称略

平成 27 年 11 月 7 日 (土) 会場：五箇山「合掌の里」(富山県南砺市)

第 1 分科会：テーマ：世界遺産・ジオパーク・日本遺産と日本風景街道

－保全と活用の在り方と手法－

- 座長 田中孝治 NPO 法人日本風景街道コミュニティ理事  
矢部 晋 NPO 法人日本風景街道コミュニティ事務局、道のコミュニティ・シンクタンク研究員
- ゲスト 青木直子 認定 NPO 富士山クラブ理事・事務局長  
桜井あけみ 東オホーツクシーニックバイウエイ連絡会副会長  
三松靖志 シーニックバイウエイ支笏洞爺ニセコルート事務局長  
渡辺成剛 糸魚川市交流観光課長

第 2 分科会：テーマ：日本風景街道と「道の駅」の関係

－「道の駅」を地域のゲイトウェイにするために－

- 座長 山内秀彦 NPO 法人地域づくりサポートネット代表理事、道のコミュニティ・シンクタンク研究員  
芝崎 拓 NPO 法人日本風景街道コミュニティ事務局、道のコミュニティ・シンクタンク研究員
- ゲスト 白木弘一 「道の駅」白川郷駅長  
市川 均 NPO 法人ちちぶまちづくり工房代表理事  
塚越秋三 NPO 法人徳合ふるさとの会代表  
志村正信 道の駅「朝霧高原」(株)富士山常務取締役・支配人  
松本順子 NPO 法人人と道研究会代表理事

第 3 分科会：テーマ：日本風景街道と急がない旅

－ヘリテージツーリズム、エコツーリズム、サイクルツーリズム－

- 座長 原文宏 NPO 法人日本風景街道コミュニティ理事  
佐藤雄一 静岡県サイクルツーリズム協議会事務局長、道のコミュニティ・シンクタンク研究員
- ゲスト 山口 章 NPO 法人アウトドアライフデザイン開発機構専務理事、道のコミュニティ・シンクタンク研究員  
佐藤雄一 (座長兼任)  
山田俊行 トヨタ白川郷自然学校校長  
山田 拓 (株)美ら地球代表取締役

第 4 分科会：テーマ：広域連携と二次交通

－白川郷～五箇山～城端駅の二次交通－

- 座長 石田東生 NPO 法人日本風景街道コミュニティ代表理事  
山口 誠 世界遺産合掌街道実行委員会事務局長
- ゲスト 田中幹夫 南砺市長  
成原 茂 白川村長  
井口智裕 (一社) 雪国観光圏代表理事

分科会総括

- 分科会報告 各分科会座長  
分科会総括 白井純子 NPO 日本風景街道コミュニティ理事・事務局長

※敬称略

現地ワークショップ 富山県南砺市(菅沼集落)周辺

## 2. 全体会

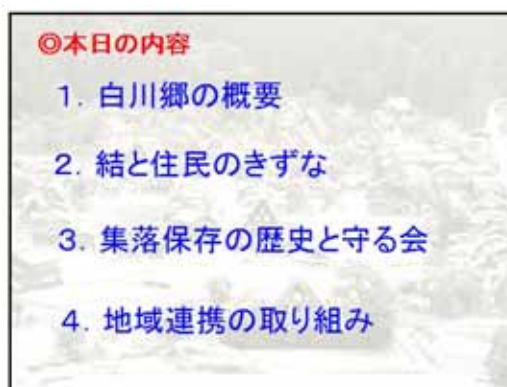
### (1) 開催地基調報告

■報告者 和田正人 「合掌・さくら」飛越街道協議会

○テーマ：「世界遺産登録20周年の歩みと地域連携」



和田 正人氏





## 2. 結と住民のきずな



## 結とは……



## 3. 集落保存の歴史と守る会

- ・昭和30年頃 ダム建設に伴う近代化の波・合掌家屋の減少
- ・昭和40年頃 合掌家屋保存組合結成(屋根葺きの組合)  
保存運動はじまる・観光客の増加(ディスカバージャパン)
- ・昭和46年 「白川郷荻町集落の自然環境を守る住民憲章」を制定  
**白川郷荻町集落の自然環境を守る会**結成
- ・昭和51年 「重要伝統的建造物群保存地区」に選定  
(合掌造主屋60棟、主屋以外49棟)
- ・平成7年 **ユネスコ世界文化遺産**に登録
- ・平成27年 **世界遺産登録20周年**  
守る会結成44周年 伝建選定39年

## 荻町集落の自然環境を守る住民憲章

1. 保存の原則
  - ・「売らない・貸さない・こわさない」(三原則)
2. 自然環境を守るために
  - ・建物の色彩の統一(黒又は黒褐色)
  - ・看板・広告等の統制
  - ・景観にそぐわない建物・施設の自壊
  - ・ゴミのない美しい集落の実現
3. 合掌家屋を守るために
  - ・所有者は重要な文化財であることを認識し保存
  - ・住民は荻町の宝であることを自覚し保存に協力
  - ・火気に細心の注意
4. 風習を守るために
  - ・郷土の風習・風俗並びに郷土芸能の保存継承



**「売らない・貸さない・こわさない」について、  
H26年12月の大寄合で確認・決定**

- ・三原則の文言・精神は継承する。
- ・伝建物のこわさないは、完全厳守。
- ・特例措置は必ず守る会に相談。
- ・新たな居住者は同じ住民として貢献。
- ・～ならわしや伝統文化を理解し、  
共に守り、共に活動できる人～
- ・必要に応じ特別委員会を設置。
- ・世界遺産である荻町集落の将来にとつ  
最良の指針・解決を目指す努力を。

**住民参加プログラム  
茅ニュープロジェクト**

10月30日(金) 茅刈り  
11月 9日(月) 茅ニュー

**世界遺産登録20周年記念フォーラム**  
『われらがつなく、合掌文化!!』

日 時: 11月 27日(金)  
場 所: トヨタ白川郷自然学校

**4. 地域連携の取り組み (活動エリア)**

世界遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」沿線を結ぶ合掌エリアと荘川桜が広がるさくらエリアを中心として活動。  
当街道は平成23年12月に日本風景街道として登録される

**合掌エリア**  
(富山県砺波市～岐阜県大野郡白川村)  
・世界遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」  
・岐阜合掌造り集落  
・富山合掌造り集落  
・新穂高原合掌造り集落  
・岐阜県内の合掌造り合掌造り(国指定)  
・新上庄  
・白川郷  
・五箇山

**さくらエリア**  
(岐阜県美山町荘川町)  
・ダム建設により消失した荘川桜  
・寛文年間(1660年)  
・太平洋と日本海を結ぶつなごうという  
夢を実現しようと、道路沿いに桜を植え続  
けた旧国鉄バス車掌佐藤良二さん(1977  
年47歳没)の遺志を受け継いで、白川  
郷から五箇山を桜でつなぐ地盤を実現中。

**取組活動**

(1) 荘川桜の植樹活動

荘川は、御母衣ダム建設によって、ダム  
湖畔に沈む運命にあった桜を電測見守りの  
初代植樹 高橋道之助の発案により植樹  
され、樹齢500年と推定される桜。

「太平洋と日本海を結ぶつなごう」という  
夢を実現しようと、道路沿いに桜を植え続  
けた旧国鉄バス車掌佐藤良二さん(1977  
年47歳没)の遺志を受け継いで、白川  
郷から五箇山を桜でつなぐ地盤を実現中。

菅沼合掌造り集落にて 萩原合掌造り集落にて トヨタ白川郷自然学校にて

**取組活動**

(2) 沿線の清掃活動

街道の美化を守るために国道156号線沿線を中心に清掃活動を実施。

**取組活動**

(3) 勉強会・シンポジウムの開催

当街道の町並み保全、当地域の魅力づくりを推進していくために様々な有識者  
による勉強会やシンポジウムを開催。

風景街道勉強会 両群地域風景街道勉強会

西村中支町並み整備五箇山 白川郷・五箇山を考えるシンポジウム

**取組活動**

(4) その他活動

北陸新幹線開業を見越して当街道の利用促進、魅力づくりを促進するため、観光や交通面で自治体などに要請、以下の事業が実現。

①観光面（北陸飛騨三ツ星街道観光促進事業；財）国土計画協会）

世界遺産と3つ星観光地をつなぐ  
北陸飛騨3つ星街道。



3つ星観光地は3つある（1里に4つ星もある！）

- 1. 飛騨高山
- 2. 白川郷
- 3. 富山県内

◎まとめ

**結（つながり・きずな）**

1. 住民（場や世代をこえて）
2. 行政とのつながり
3. 有識者とのつながり

**FIN**

ご静聴ありがとうございました。



(2) 全国事例報告と討論

全国事例報告 : テーマ : 世界遺産と日本風景街道 (日本遺産を含む)



座長 : 田中 孝治

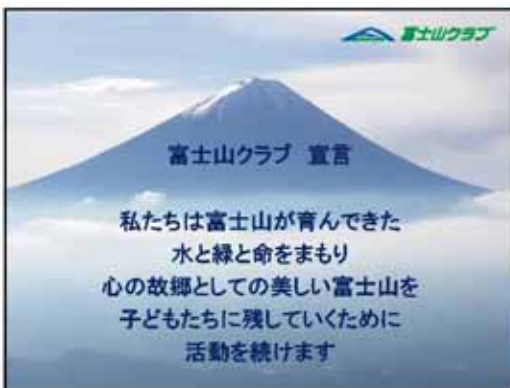


青木 直子氏

桜井あけみ氏

■ 報告者 青木直子 認定 NPO 法人富士山クラブ理事・事務局長

○ テーマ : 世界遺産「富士山」と「ぐるり・富士山風景街道」







富士山クラブ

<http://www.fujisan.or.jp>

ぐるり富士山風景街道一周清掃

<http://gururi.fujiyama.tv/cleanup>

■報告者 桜井あけみ 東オホーツクシーニックバイウェイ連絡会議副会長


○テーマ：「知床」と東オホーツクシーニックバイウェイ

東オホーツクシーニックバイウェイ  
と  
世界自然遺産・知床

シーニックの活動もいろいろやっています。

知床のすばらしさは、きっと、来てもらわなければ、分からないかもしれません。

なので、今日は地域に住む私たちの思いから始まったことを、白川郷でお伝えできればと思います。



東オホーツクシーニックバイウェイのルート

東オホーツクシーニックバイウェイは、東オホーツク道(旭川)と道庁に分割され、それぞれ00系ルートは命名されている。

北海道って広いです。



主な活動

『シーニックデッキの設置及び補修』

『東オホーツク道の「おしゃべり」の利活用（シーニックマルシェ）』

▲シーニックマルシェ（補修） ▲シーニックマルシェ（ウトロ） ▲シーニックマルシェ（清里）



主な活動

『沿道花の苗植栽』

『緑生湖クリーン作戦』

▲青森県民会館参加者 ▲道産たいの漬物作り



主な活動

『オホーツクホーストレッキングの開催』

馬よから見えるオホーツク海が絶好の景色

▲オホーツクホーストレッキングの様子

『大雪原をひとりじめ』



主な活動

『ポワットパークの搬出及び運搬』

▲ポワットパーク ▲ポワットパーク ▲ポワットパークの様子イベント

『冬の「神の子池」かんじきウォーキング』



◇「東オホーツクシーニックバイウェイ」パネル展

※この地域集約内図

・観光市「遊り野」(旭川市)「まちなか交流プラザ」、料理館「道の駅」(旭川市)において、東オホーツクシーニックバイウェイ「パネル」を展示。  
・パネルによる「東オホーツクルート」の紹介とシーニックバイウェイの解説を行い、一般市民に広く公開することを目指し開催。

●展示場  
旭川市 旭川駅前  
の様子

●展示場  
旭川市  
の様子

●展示場  
旭川市  
の様子

●展示場  
旭川市  
の様子



HPでの東オホーツクSBWルート紹介

東オホーツク道の00系ルートと00系ルート各路線を案内する東オホーツク道のHP

東オホーツク道の00系ルートと00系ルート各路線を案内する東オホーツク道のHP



全国事例報告 : テーマ : ジオパークと日本風景街道



座長: 原文宏



米田 徹 市長



三松 靖志 氏

■ 報告者: 米田 徹 糸魚川市長

○ テーマ: 世界ジオパーク「糸魚川」と「北アルプス展望 最長最古の塩の道ルート」、  
「日本の原風景『枝垂れ桜の咲く里への回り道』」







### 糸魚川市内の風景街道

① 北アルプス大展望・最長最古の塩の道ルート

- ◆ 日本海と太平洋を結ぶ約350kmのルート
- ◆ 自然と歴史の共生が感じられる地域文化が豊富

大野のウトウ

### 糸魚川市内の風景街道

② 日本の原風景 枝垂れ桜の咲く里への回り道

- ◆ 大地に楽しみを創るスローライフな考え方
- ◆ 漁村や棚田で知る、自然を活かす人々の知恵

枝垂れ桜 ハイキング

### 糸魚川市内の風景街道

① 北アルプス大展望・最長最古の塩の道ルート

- ◆ 日本海と太平洋を結ぶ約350kmのルート
- ◆ 自然と歴史の共生が感じられる地域文化が豊富

大野のウトウ

### 糸魚川市内の風景街道

② 日本の原風景 枝垂れ桜の咲く里への回り道

- ◆ 大地に楽しみを創るスローライフな考え方
- ◆ 漁村や棚田で知る、自然を活かす人々の知恵

枝垂れ桜 ハイキング

### ジオパークと風景街道

#### 風景街道の目的

- ◆ 郷土愛の育成
- ◆ 日本（各地域）の魅力の発見と創出
- ◆ 協働による原風景の創成運動の促進

↓

地域の活性化に寄与し、  
国土文化の再興の一助とする

＜出典：国土交通省ホームページ＞

### ジオパークと風景街道の対比

	糸魚川ジオパーク	風景街道
対象	大地の遺産(モノ) 自然を愛する活動(ヒト)	道路沿線の景観、自然、歴史、文化 など
目的	保護、活用、地域振興 (教育、研究、ジオツーリズム)	地域活性化・観光振興による 国土文化の再興
地域	市域全体	沿線地域全体
主体	官民協働による運営組織	地域の主体による協働

方向性 = ジオパークと通じる

## 将来に向けた取り組み



### 《環境の保全》

次代への地質・自然・文化など  
地域資源の継承

### 《郷土愛の育成》

郷土を愛し、誇りに思う気持ち  
の醸成

### 《地域振興》

ツーリズム等による交流人口拡大と活性化



**持続可能な地域社会の形成**  
ふるさとに愛着と誇りを！

13

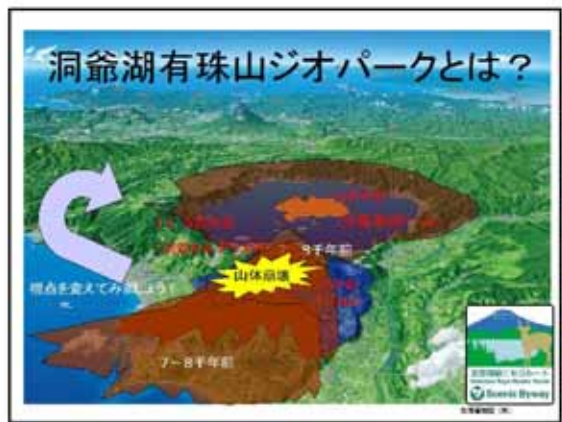
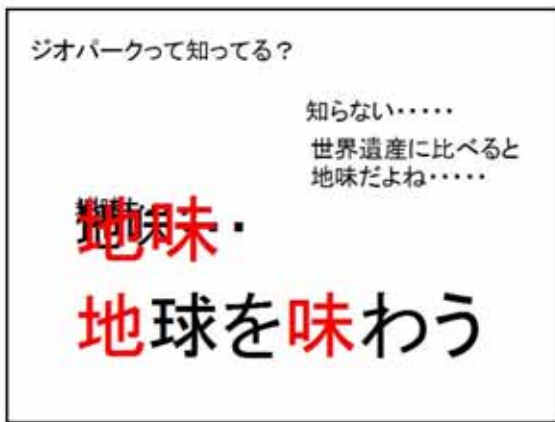
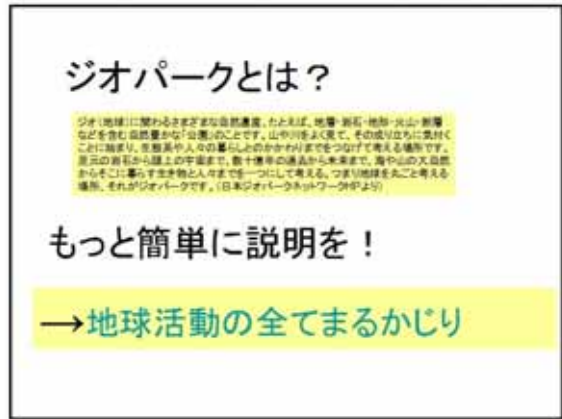


ご清聴ありがとうございました



14

■報告者：三松靖志 シーニックバイウェイ支笏洞爺ニセコルート事務局長  
 ○テーマ：世界ジオパーク「洞爺湖有珠山」と「支笏洞爺ニセコルート」





**まとめ**

- ★ジオパーク及びシーニックの景観保全活動  
→認知度向上が必要
- ★湖、温泉、生産物etc  
→すべてジオパークに繋がる
- ★魅力発信  
→面白い「人」により魅力は増す。  
人の魅力の向上が必要  
＝ガイド＝地域のイメージ

ご静聴ありがとうございました

### (3) 全体会議総括

#### 高松 論 国土交通省道路局環境安全課道路環境調査室長



風景街道戦略会議が始まり 10 年目となり、現在 136 の風景街道が登録されている。この間、決して順風満帆ではなかったかもしれないが、我々は力になりたいと考えている。

本日、観光の話もあったが、観光の現状として GDP の 5% を占めている。インバウンド観光では今年 10 月で既に 1,000 万人を超え 2,000 万人に届きそうな勢いである。各地域の日本らしい風景も大事な要素と考えている。また高速道路がネットワーク状に整備が進み、地域間観光のインフラとなることも大事な要素と考えている。

2 つ目として、昨年度重点道の駅が選定され、ますます地域のゲートウェイ機能が期待されており、また風景街道等との連携も大事だと考えている。国の社会資本整備審議会道路分科会にて地域連携の議論もあり、地道な地域の方々の支援により支えられているとの思いを強くしている。より緊密な連携の取り組みを進めたいと考えており、安定的に長く続く仕組みを検討し、皆さんのお力になりたい。

#### 石田東生 NPO 法人日本風景街道コミュニティ代表理事



まず“シーニックバイウェイ”と“日本風景街道”は違うという意見もあったが、私はそう思っていない。北海道ではシーニックバイウェイと呼び、その後、道路局へと広がる中で日本風景街道となったといういきさつがある。現在でも正式英語名は **Scenic Byway Japan** である。

次に“観光”とは中国の古典「易経」に由来し、“光＝地域の力”とし、それを“観る＝心で観る”という意味がある。そのため **tourism** とは少し意味合いが異なり、シーニックバイウェイや風景街道に近い意味だと感じている。

本日の議論を聞いて、地域を良くしたい・活性化したい・人が主役などの“志”を感じた。また、誰もが知る世界遺産や地球活動による地域すべてを含むジオパークが羨ましいと感じた。しかし考えようによっては、風景街道がそのような活動の中で評価を受けるとの意見も出され、風景街道の活動範囲が広く、ポテンシャルが広いとも感じられた。どの地域にも心の世界遺産があると思われる。それが誇りや愛着であり、形として現れるとテーマ性・活力となる。誇りや愛着を形に表すのが我々の活動だと感じた。

もうひとつ、白川郷の方から世界遺産を維持するシステムが地域にあるという話があった。それはいろいろな人を巻き込むことができることであり、そのためにもテーマ性や街道が必要だと思う。そのためにも道路行政だけでなく、環境省、文科省、経産省、官公庁等を巻き込むことも大事であり、その縦割を打破するのは、行政の努力だけでなく、地域の活動する皆さんの力だと思う。その支援・協力の力になれるよう頑張りたいという思いを新たにしたい。

#### (4) 次回開校地紹介

宮崎典男 福島県いわき市 副市長



いわき市は昭和41年に14市町村が合併して誕生し、来年10月に市制50周年を迎える節目の年に、日本風景街道大会が開催されることは大変喜ばしいことと考えている。当市は福島県の南東部に位置し、気候温暖で豊かな自然に恵まれた市である。また東日本大震災では津波により多くの尊い命が奪われるなど甚大な被害を受けたが、全国の支援により復興の歩みが進んでいる。中央幹線道や陸前浜街道の景観、日本風景街道として登録されている「ふくしま浜街道ハッピーロード」の現状を皆さまの五感で感

じて頂き、課題を共有し、一刻も早い復興や地域活性につなげていくことを楽しみにしている。

また、市内には常盤湯本温泉スパリゾートハワイアンズや映画「超高速！参勤交代」ロケ地にも選ばれるなど、皆さんに楽しんで頂けるものと考えている。市民の安全安心で、活力に満ちたいわき市となるよう全力で取り組んでいくので、皆さまのご協力をお願い申し上げます。来年は市長による「アロハ」でお迎えますので、どうぞお越し頂きたい。

### 3 . 分科会

(1)第1分科会:世界遺産・日本遺産やジオパークと日本風景街道 - 保全と活用の在り方と手法 -



座長：田中孝治 NPO 法人 日本風景街道コミュニティ 理事  
矢部 晋 NPO 法人 日本風景街道コミュニティ 事務局  
ゲスト：青木直子 認定 NPO 法人富士山クラブ理事・事務局長  
桜井あけみ 東オホーツクシーニックバイウェイ連絡会議副会長  
三松靖志 シーニックバイウェイ支笏洞爺ニセコルート事務局長  
渡辺成剛 糸魚川市交流観光課長

#### 【分科会概要】

世界遺産・日本遺産・ジオパークのベースになっているのは、自然の営みによって育まれた地域資源であり、これは地域にとっての『元本』のようなものである。この元本をオーバーユースせず、必要最低限の手入れで次世代へ引き継ぐことが大切との共通認識をもちつつ、現状の課題や今後の取組みについて談議した。

#### 【今後の方向性】

##### 論点1：多様な主体の連携について

##### 連携に向けたアプローチ

ジオパークも日本風景街道も多様な主体同士の「連携」が不可欠であるが、それぞれ活動目的等が異なるため「連携しましょう」と言っても無理がある。しかし、地域の「課題や問題」については共通認識を持っていることが多く、連携するためには「共通の課題」を共有していくことが大切である。

##### 連携の方法

ジオパークと日本風景街道とは、類する事柄が多く、お互いが連携するためには「相乗り」することが有効と思われる。例えば、お互いの活動のパンフ等の媒体でジオパークと日本風景街道の名称を併記するなどは、簡単にできることだと思う。

##### 論点2：保全と活用のあり方について

ジオパークの活動も単に地域資源（元本）を保全してだけでなく、「人に来て見ていただく」「認めていただく」ことが不可欠かと思う。これは日本風景街道の活動と一緒である。いずれにせよ元本を過剰に使わずに、例えば新しい道路を造ったことによって生じる旧道を散策ルートの的に整備していくなどの付加価値を付け、元本を増やして後世へと引き継いでいくようなことを考えることが重要である。

(2) 第2分科会:日本風景街道と「道の駅」の関係 - 「道の駅」を地域のゲイトウェイにするために-



- 座長：山内秀彦 NPO 法人地域づくりサポートネット代表理事、道のコミュニティ・シンクタンク研究員  
芝崎 拓 NPO 法人日本風景街道コミュニティ事務局、道のコミュニティ・シンクタンク研究員  
ゲスト：白木弘一 「道の駅」白川郷駅長  
市川 均 NPO 法人ちちぶまちづくり工房代表理事  
塚越秋三 NPO 法人徳合ふるさとの会代表  
志村正信 道の駅「朝霧高原」(株)富士山常務取締役・支配人  
松本順子 NPO 法人人と道研究会代表理事

**【分科会概要】**

道の駅を地域の“ゲイトウェイ”とするために、道の駅の運営や情報発信における現状の取組み・課題、また、風景街道や地域における情報発信の取組みや課題について、事例等を踏まえ共有し、日本風景街道と地域、道の駅が共存・共栄できる連携のあり方等について談義した。

**【今後の方向性】**

**論点1：道の駅にコンシェルジェ機能の強化**

道の駅をゲイトウェイとするためには、地域の細かな情報を発信するコンシェルジェ機能が重要になる。しかし、道の駅だけで地域の細かな情報を収集することは難しく、また専属の案内スタッフの配置も経営的に難しい。そのため、日本風景街道や地域が道路管理者等と連携し、地域情報の集約・発信を行うコンシェルジェ機能を担うことで、道の駅と風景街道、双方にメリットのある関係を構築することが重要である。

**論点2：デジタル技術を活用した情報発信手法の導入**

道の駅 湯どころちぢみの里(新潟県小千谷市)で実施されている「より道ナビ」は、タッチパネル式の端末を道の駅に設置し、周辺の飲食店やお土産店、宿等の観光情報を発信している。マップやパンフレット等の紙媒体での情報発信だけでなく、デジタル技術を活用し、効率的に情報発信する手法についても導入を検討する必要がある。

**論点3：日本風景街道のブランドを活用した共存・共栄**

道の駅で日本風景街道の情報を発信することで、多くの方に日本風景街道を知っていただくと共に、地域に旅行者が訪れるきっかけとなる。一方、道の駅は日本風景街道の細かな地域情報や地域の顔が見える信頼できるブランドを活用し、道の駅への集客を図ることができるようになれば、双方が共存・共栄できる関係を築くことができる。また、イベントのような一過性の集客ではなく、日常の暮らしや営みを観光コンテンツとして磨き上げ、常に人が訪れる地域づくりを道の駅と風景街道が協働してつくり上げていくことも大切である。



(3)第3分科会:日本風景街道と急がない旅 - ヘリテージツーリズム、エコツーリズム、サイクルツーリズムー



- 座長：原文宏 NPO法人 日本風景街道コミュニティ 理事  
佐藤雄一 静岡県サイクルツーリズム協議会事務局長、道のコミュニティ・シンクタンク研究員  
ゲスト：山口 章 NPO法人アウトドアライフデザイン開発機構専務理事、道のコミュニティ・シンクタンク研究員  
佐藤雄一 (座長兼任)  
山田俊行 トヨタ白川郷自然学校校長  
山田 拓 ㈱美ら地球代表取締役

**【分科会概要】**

旅の形態が多様化する中で体験観光に関心が高まっており、健康指向もあって、ハイキングやサイクリングと組み合わせたエコツーリズムやヘリテージツーリズムが全国で展開され始めている。このようなツーリズムを地域経済や雇用の場として地域づくりに活かしている先進地域に学びながら、課題の明確化と、解決に向けた処方箋について討議した。

**【今後の方向性】**

**論点1：トレイルガイド、サイクルガイドの養成**

現状はガイド事業を営む各団体、企業が自前で独自の養成プログラム（自然ガイド、時間及び安全管理、救命救急等）、を持っているほか、日本山岳ガイド協会が認定する「自然ガイド」の資格取得等と組み替えて養成している。また、急増する外国人観光客に対応するため、語学力も必要になっている。いずれにしても、ガイド養成には費用と時間がかかるため、需要に全く追いついていない現状。対策として、各機関が今後もガイド養成を継続することは基本であるが、季節間・地域間でガイドを融通する仕組みや、場所やコースによっては、職業ガイドではなくボランティアガイドやロコサイクリストで対応する仕組みづくり等の提案があり、日本風景街道の全国的なネットワークの利用等も示唆された。

**論点2：地域経済への貢献**

トレイルツアーやサイクルツアーは、ともすると綺麗な景色を眺めて、消費行動なしに地域を通過してしまいかねない。観光客の満足度を維持しながら地域経済に貢献する工夫について議論した。基本は、適正なガイド料金の確保であり、最低でも1日一人1万円以上の料金設定が人材確保や経営面から必要とのことであった。また、ツアープログラムの中に地産地消の店やレストランを組み込み、ツアーを楽しみながら消費を促す工夫や、サポートカーの並走、お土産等の買った物を別送でホテルや駅等へ届けるサービス等を加えると更に購買意欲を高める効果があることが報告された。

#### (4) 第4分科会: 広域連携と二次交通 - 白川郷～五箇山～城端駅の二次交通



座長：石田東生 NPO 法人 日本風景街道コミュニティ 代表理事  
山口 誠 世界遺産合掌街道実行委員会事務局長  
ゲスト：田中幹夫 南砺市長  
成原 茂 白川村長  
井口智裕 (一社) 雪国観光圏代表理事

##### 【分科会概要】

一次交通と位置付けられる北陸新幹線の開通により、来訪者が増加した地域もあれば、通過されてしまう懸念を持っている地域もある。このような人の流れの変化を踏まえながら、より良い地域づくりを進め、魅力があって多くの来訪者に来ていただくためには、「住んでよし。訪れてよし。」の国づくりが求められる。そのためには狭い地域内での取組みだけでなく、広域的な地域連携と、人の移動を下支えする二次交通が重要であるとの認識の下、「雪国観光圏」「南砺市」「白川村」の取組みについて紹介していただいたうえで、現状の課題や今後の取組みの方向性について談議した。

##### 【今後の方向性】

###### 論点1：行政界を超えた広域連携

北陸新幹線の開通に伴い、在来線の利用者が減少するため、越後湯沢等では地域衰退の懸念がある。このような現状を勘案し、3県7町村で構成（連携）する「雪国観光圏」を設立し、資源の磨き上げと広域連携の取組みを展開している。

地方部では生活者の移動も不便で、地域には十分な資源があるにもかかわらず、上手く情報発信できず、人に訪れていただけない事例が多くあるが、行政界や組織にとらわれず、圏域全体としての連携を推進していく必要がある。

###### 論点2：交通手段の連携

北陸新幹線の開通に伴って人の流動が変化してきており、白川郷・五箇山の来訪者が増加傾向にある。現在では、1次交通（新幹線）、2次交通（ローカル線）、3次交通（乗合タクシー、周遊バス等）の連携においては発展途上であり、今後、バス、タクシー等の仕切りをなくしていくような取組も必要である。

###### 論点3：人づくりの重要性

日本の観光は「経済重視」だが、海外では「地域重視」である。プレイヤーにも条件があり、自分の家（経営する事業、本業）をしっかり管理できる人でないといけない。自分のことも出来ないのに、地域のことを語るのはダメ。会社経営で一番大事なことは、後継者が居るかどうかである。

## (5)分科会総括

■ 臼井 純子 NPO 法人 日本風景街道コミュニティ 理事・事務局長



4つの分科会での議論は多岐にわたるが、そのすべてに共通しているのは、地域資源を活かした国民的な原風景の創成という「日本風景街道」の目的は、今回の特別テーマとして取り上げた世界遺産、日本遺産、ジオパークと同様に、地道な「地域づくり」なくしては決して実現できないという認識であろう。「地域づくり」とは、地域の魅力づくりであり、道の駅との連携による資源動員と成果・効果の拡大、地域のブランドの確立である。そして、そのために一番重要なことは、「人づくり」に尽きる。地域のガイド、地域リーダー、コンシェルジュ、継承者等さまざまな形はあるが、人材の育成こそがこれからの一番重要な仕事であることが再認識された。「日本風景街道」は、これらを実現するための地域の「舞台」の役割を担っている。

地域づくりに近道はない。これからも地道な努力を継続していくことしか、地域が生き残る道は残されていない。私達はこのことを肝に命じるべきであり、人材育成に向けて総力をあげて取り組む必要があるだろう。地域の人材育成においては、「知識」を高め、「技術」を磨くことが肝要であり、そのための有効な方法として、体験型ワークショップの場を数多く持つことなどが考えられる。

高知県で6年にわたり、産業人材育成コーディネーターとして人材育成に携わってきた。現在卒業生は100名を超し高知県全域に拡大しており、高知県の次世代の産業を担う経営者達が育っている。初めは点でしかなかった取組も、年月を経て、県内外で活躍する人々を輩出してきている。彼らが地域のリーダーとして周りを巻き込み、同じ温度感を持った同志として切磋琢磨し連携を強めながら、新たな商品開発、観光開発を進めている。「知識」を高め「技術」を磨き切磋琢磨する「場」の提供が、地域を元気にしていることを実感している。

その意味でも、今回の「日本風景街道大学」は、「まとまること」、「つなげること」、そして「刺激し合うこと」の3つの役割を提供する「地域づくりの場」としての役割を果たしたのではないだろうか。

#### 4. 現地ワークショップ



富山県南砺市五箇山（菅沼集落）



## 5 . 全体総括（提言）

日本風景街道は、世界遺産、日本遺産、ジオパークと多くのルートが重なっており、制度は異なっても目的や活動内容に類似する点が多い。

これらの制度には、当然のことだが道が介在する。あるいは道自体が遺産を構成している場合もある。また、いずれも遺産の保全と共に、活用によって地域づくりに寄与したいという期待を伴っている。しかし、制度が違い、行政の所管が異なると、同じような目的や活動内容でありながら、なかなか手を結べないという現実がある。

日本風景街道大学は、これからの地域づくりは「心」（思い入れ、関心）、「技」（知恵、技術）、「体」（仕組み、制度）を三位一体で併せ持つことを共通テーマに掲げてきた。

地域に関わるには、「関心」と「思い入れ」が欠かせないことは言うまでもないが、「思い入れ」だけで地域の諸課題が解決できるわけではなく、地域自らが知恵と技術を学び、磨き、継続のための仕組み、制度を整えて行く必要がある。

今や突出したリーダーが地域を引っ張るだけでなく、むしろ雑木林の一本ずつの木のように、それぞれの人が得意な分野で力を発揮し合いながら地域を担って行く時代、つまり「巨木型」から「雑木林型」へと変わっており、日本風景街道は「みち」で結ばれた雑木林のようなものではないかと考えている。

小さな地域はどうしても人材に限られ、会合の名前は違っても集まる顔ぶれはいつも同じということも多々ある。それを解決するには、時には外からの人材と知恵が有効に働くこともある。また、地域に関わる制度や仕組みの中から共通点、重なる部分を探し、担い手同士が相乗りをしていくことも必要になる。

日本風景街道大学には、他所の人材と知恵を知り、交換し合う「機会と場」という一面がある。本校では、世界遺産、日本遺産、ジオパークと日本風景街道との類似点に着目し、連携の在り方を探り、現場の実践活動から制度の相乗りの仕方、手の結び方について学び合い、有意義な話し合いができたが、今後も、このような場づくりを全国的に展開していく必要性をあらためて実感した。